

5月 9-15 日

## サムエル第一 30-31 章

### 8番の歌と祈り

開会の言葉（1分）

### 神の言葉の宝

「エホバに頼って自分を力づける」（10分）

宝石を探し出す（10分）

サム一 30:23, 24 ダビデは言った。「私の兄弟たち、エホバが下さった物について、そのような扱いをしてはいけません。神が私たちを守ってくださり、私たちを襲った略奪隊を私たちの手に渡してくださったのです。24 あなたたちの考えに同意する人がいるでしょうか。戦いに行った人の分け前も、荷物のそばに座っていた人の分け前も同じです。皆が一緒に分け前を受け取るのです」。

この記述から何を学べるか。

（塔 05 3/15 24 ページ 8 節）サムエル記第一の目立った点

30:23, 24。民数記 31 章 27 節に基づくこの決定は、会衆で補助的な役割を担って奉仕する人々をエホバが高く評価しておられることを示しています。ですから、何をしていても、「人にではなくエホバに対するように魂をこめてそれに携わり」ましょう。—コロサイ 3:23。

今週の範囲からエホバについて何を学べたか。宣教でどんな点を活用できるか。ほかにどんな宝石を見つけたか。

(サム一 30:6) 宝の講話でダビデが追い詰められた時にエホバに頼った模範から学んだ。続く(サム一 30:7)の祭司(当時の組織)を通して情報を得ようとしたこと、(:8)のエホバに伺いダビデが日頃から神からの指示や教えを大切にしていたことを学べる。私たちも個人研究を欠かさず、組織を通じた助けとして集会を休まないことを今決意したいと思う。

聖書朗読（4分）サム一 30:1-10（教励 第2課）

### 野外奉仕に励む

再訪問の動画（5分）討議。「再訪問: 良い人生（詩 119:105）」の動画を再生する。映像が止まったところで動画を一時停止し、画面に表示される質問をする。

「いい人生を送るために聖書がどんな風に役立つかお話しいしたいと思っていた。誰でも人間関係とか仕事の事とかで、どうしたらいいんだろうって悩むことってありますよね？そんなときに頼

りにしているものって何かあるか？（親とか友達？）あーいいですね。悩み事があるとき聖書も役立つんですよ。聖書ってこんなイメージの本なんです。（詩 119:105）「貴方の言葉は私の足元を照らすランプ、私の進む道を照らす光」これ、聖書の事なんですけど、「私の足元を照らすランプ、私の進む道を照らす光」。例えば周りが真っ暗になっても、スマホのライトで足元を照らせば、安心ではないですか？（そうですね、何かを踏んでしまうこともない。）聖書ってちょうどそんな感じなんです。毎日の生活の中でどうしたらいいんだろうと思って悩むような時に役立つアドバイスがいろいろある。そのおかげで余計な問題を避けたり、いい決定ができたりする。聖書にそういうイメージ有りましたか？（いや、自分には関係ないって思っていましたけど、そんなことが書いてあるんですね。）そうなんです。ここには「進む道を照らす光」ともありました。ライトが有れば、足元だけでなく、先の方を照らせる。同じように、世の中これからどうなるのかってことも聖書から分かる。（うんですか！？どうなるんですか？）じゃ、聖書にどんな将来について書いてあるか、また今度お話ししてもよいか？来週のこの時間にまたお尋ねしますね？

」

①伝道者はどのように相手が話に付いてきやすくなっていますか？

- ・人間関係とか仕事で悩むときに頼りにしているもの有るか？
- ・聖書にはアドバイスがいろいろあり、足元を照らすランプのように役立つことを説明。
- ・聖書にどんなイメージを持っていたか？
- ・聖書が「進む道を照らす光」として将来も分かることも加えた

②「いつまでも幸せに暮らせます」の冊子にどのように繋げられますか？

- ・レッスン 01 「聖書はどのように役立つ？」の 3. 「聖書は頼りになる本」の挿絵
- ・レッスン 02 「聖書を読むと希望が持てる」全体から将来には明るい希望があること説明
- ・レッスン 03 「聖書は信用できる？」の 5. 「聖書には重要な出来事が予告されていた」

再訪問（3分）話し合いのサンプルを用いる。（[教励 第8課](#)）

再訪問（5分）話し合いのサンプルを用いて話し始める。「いつまでも幸せに暮らせます」の冊子を提供し、レッスン 01から聖書レッスンを始める。（[教励 第16課](#)）

## クリスチヤンとして生活する

### 43 番の歌

「エホバの友になろう いつでもいのる」（5分）討議。動画を再生する。もしいれば、前もって選んでおいた子供たちに次の質問をする。エホバに祈ると良いのはなぜか。どんな時に祈れるか。どんなことを祈れるか。

会衆の必要（10分）

会衆の聖書研究（30分）暮 レッスン 03

閉会の言葉（3分）

95 番の歌と祈り

神の言葉の宝

## エホバに頼って自分を力づける

アマレク人はチクラグを焼き、そこにいた全ての人を捕虜として連れ去った。 ([サム一 30:1, 2](#))

ダビデと部下たちはひどく苦しんだ。 ([サム一 30:3-5](#)。 [塔 06 8/1 28 ページ 12 節](#))

ダビデはエホバから力を得た。 ([サム一 30:6](#) 部下たちがダビデを石打ちにすると言いましたため、ダビデは非常に追い詰められた。息子や娘を失ったことで皆、逆上したのである。それでもダビデはエホバ神に頼って自分を力づけた。 [塔 12 4/15 30 ページ 14 節](#) ダビデは生涯中に、何度も苦しい状況に直面しました。 ([サム一 30:3-6](#))  
靈感を受けたその言葉から、エホバがダビデの気持ちを知っておられたことが分かります。 (詩編 34:18; 56:8 を読む。) 神はわたしたちの気持ちもご存じです。わたしたちが「心の打ち碎かれた」とき、あるいは「靈の打ちひしがれた」とき、神は近づいてくださいます。そのこと自体、慰めとなります。ダビデの場合がそうでした。こう歌っています。「わたしはあなたの愛ある親切を喜び、歓び楽しめます。あなたがわたしの苦悩をご覧になったからです。あなたたはわたしの魂の苦難を知って（おられます）」。 (詩 31:7) しかしあエホバは、わたしたちの苦しみに目を留めるだけの方ではありません。慰めと励ましを与えて、支えてくださるのです。そのために神がお用いになる一つの方法は、クリスチヤンの集会です。)



じっくり考えてみよう：苦しくて力がない時、私はどこに目を向けるだろうか。